

国史跡 「藤樹書院跡」 指定100年のあゆみ

藤樹書院跡（安曇川町上小川）は、日本陽明学の祖として知られる中江藤樹の居宅および私塾のあった地で、藤樹の遺徳を伝えるための拠点として、長い歴史のなかで周辺の住民などによって大切に守り伝えられています。藤樹書院跡は、大正11年（1922）3月8日に国史跡に指定されてから来年で100周年になります。

藤樹書院の創建と文化財指定

中江藤樹は、15歳のとき大洲藩（愛媛県大洲市）に仕えましたが、



藤樹書院旧図

27歳で脱藩し故郷の小川村へ戻りました。はじめ自らの居宅で私塾を開き、のちにその南側に会所を建てましたが、門人が増えるにしたがって手狭になったことから、慶安元年（1648）2月に新しい講堂である「藤樹書院」が建築されたといわれています。藤樹が亡くなった後も村人や門人によって維持管理がなされ、藤樹の百回忌にあたる延享4年（1747）には正門が建てられるなど、藤樹の業績を伝える場として整備されました。

建物は、明治13年（1880）に起こった小川村の大火により焼失してしまいました。幸いにも書院内にあった宝物は村人によって持ち出され、その2年後に仮の講堂として再建されたのが現在の藤樹書院です。そして、大正11年（1922）再建された建物を

含む跡地一帯が「藤樹書院跡」として国史跡に指定されました。さらに平成19年（2007）7月26日には、書院近くの玉林寺の門前にある中江藤樹墓所が国史跡に追加指定されています。

また、昭和54年（1979）、大火を免れた宝物のうち25点が「中江藤樹歴史資料」として旧安曇川町の指定文化財となり、翌年には藤樹の命日に行われる「儒式祭典」が町指定無形民俗文化財（現在は高島市指定文化財）に指定されています。

記念館での展示

近江聖人中江藤樹記念館では、藤樹書院跡が史跡指定100周年を迎えるにあたり、令和3年度展示として令和4年3月31日まで、藤樹書院の代表的な所蔵品を展示し、書院の成り立ちから現在に至る歴史や地域の人々とのつながりを紹介しています。展示の詳細については、30ページの文化情報ともしびをご覧ください。



藤樹書院跡正面

☎ 中江藤樹記念館
(32)03330

編集感

高島の山々も色づき、冬の準備が始まっていますね。今年も残すところあと2か月です。やり残したことはなかったか考えると、一番に出てくるのが部屋にある本の山。おうち時間にとたくさん購入しましたが、結局ほこりをかぶったまま。読書の秋にあやかって、まずは一冊読んでみようと思います。皆さんも読み残している本、ありませんか。(M)



広報たかしま

令和3年

11

月号

No.262

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp